



	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 第三者意見



サステナビリティ日本フォーラム  
代表理事

後藤 敏彦氏

サステナビリティがイノベーションの原動力であるということ、環境への企業責任および解決、電気自動車（EV）、自動運転、2050年のCO<sub>2</sub>削減率等々、長期的視点のトップの認識が示され、それをベースにさまざまな取り組みがなされていることが読み取れます。また、マテリアリティ評価が「経営会議体」でなされていることと、そのプロセスが述べられており、高く評価できます。

8つのサステナビリティ戦略は企業の無形財産価値の根幹であり、これを高めていくことは、企業価値の向上につながるものと考えます。すべて重要で、それに沿った開示はマルチ・ステークホルダーには妥当と思いますが、世界の投資家はESG投資\*に大きく舵を切り、中でもガバナンスが重視されていることを付言しておきます。2014年2月に金融庁が『「責任ある機関投資家」の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》』を策定・公表したことでESG投資・長期的投資は日本でも大きな流れになると思われます。ステークホルダー別の重み付けや開示は、CSRスコアカードの活用、その他にて対応しておられるものと推察しています。SRI等での高い評価の維持向上を期待します。

時間をかけてアライアンスを強化してこられ、ここにきて一段と高いステージに進められました。物流や購買の機能も統合されますので、バリューチェーンでの取り組みでもその高度化、特にデュー・ディリジェンス（DD）の実施・向上に期待したい。自動車産業のサプライチェーンは広く深く、一次購買先についてもすべては容易でなく、二次から先へのDDは極めて難

易度が高い課題です。しかしながら、ビジネスの主戦場となる新興国・途上国でのCSR課題は、グローバル化の中ではリスクとオポチュニティの主要課題になると思われますのでDDは極めて重要です。それと絡み、バリューチェーンでのICTの活用もこれからの大きな課題と考えます。

EVだけでなくさまざまな方策により、CO<sub>2</sub>削減等、環境への取り組みが急速に進化していることは高く評価され、環境との関連が深い安全や品質においても真摯な取り組みが読み取れます。日本企業のESGでの“E”については世界からの評価も高いので、フロントランナーであり続けられることを期待します。また、セールス・サービス品質に言及されているのも評価できます。

方針として社会貢献を環境・教育・人道支援の3分野に重点を絞っておられるのは評価できますが、今、世界ではポスト2015が議論されています。先行き、その中で重点とされるものについて戦略的フィランソロピーを実行し、ビジネス・オポチュニティに繋げていくことが重要で、その場合のキーワードのひとつはさまざまなステークホルダーとのエンゲージメントです。

従業員関連、特にダイバーシティについては、ジェンダーとカルチャーという二面での取り組みは社会からの評価も高く日本のトップランナーとして敬意を表したい。しかし、欧州委員会は2013年4月に取締役会のダイバーシティ方針の策定と開示という会計法指令の改訂提案を提出し、2014年4月には欧州議会で採択されています。人材育成と企業風土の改革には時間がかかりますので2050年あたりまで俯瞰した、取締役会だけでなく、従業員全体も含めたダイバーシティに関するポリシーの検討が必要と考えます。

21世紀ポスト産業資本主義時代の企業の主役は人の知恵であり、人的組織の育成がすべてに通底する最重要課題と考えます。認識され対応されていると思いますが、あえて述べさせていただきます。

最後に、データの充実の評価できますが、CSR情報の長期的視点での方針や目標、財務情報との統合等の開示要請が高まってきており、そうした方向に注力する必要があることを付記させていただきます。

\*ESG投資：環境・社会・ガバナンスを重要課題とし、それに注目した投資